



報 道 発 表

令和4年5月19日
財務省中国財務局

旧広島陸軍被服支廠4号棟の建物詳細調査結果及び今後の対応について

中国財務局は、国が所有する旧広島陸軍被服支廠4号棟（以下「4号棟」という。）について、建物の劣化状態や耐震性能等の実態把握を行うため、令和3年度に建物詳細調査を実施しました。当該調査の結果及び今後の対応は、以下のとおりです。

1. 調査結果について

4号棟の建物の劣化状態や耐震性能等は以下のとおりであり、広島県が実施した1～3号棟の調査とほぼ同様の結果となりました（主な項目の調査結果は、別紙のとおり）。

（参考）今回の調査は、広島県が実施した調査と同様の調査方法・考え方に基づき、各種試験・調査や耐震診断を行っています。

- 構造部材である煉瓦壁や躯体コンクリートの強度は十分あり、崩壊（＝外的要因以外での倒壊）の危険性は低い。
但し、耐震性能を示すIS値は、最も低い場所で0.48程度であり、目安としている0.6（注）を満たしていないことから、最低限の耐震補強が必要。
- 非構造部材については、屋根瓦や鉄扉の腐食が進行しており、屋根瓦の全面葺替や台風時における鉄扉の脱落対策がそれぞれ必要。
（注）IS値が0.6であれば、「震度6～7程度の地震の振動等による倒壊等の危険性が低い」とされている。

2. 今後の対応について

- 本件調査結果を踏まえ、4号棟について周辺住民の安全確保の観点から、今年度に耐震補強を含めた安全対策に係る実施設計を行うこととします。
- 具体的な安全対策工事の実施や保存・利活用の取扱いについては、引き続き、広島県や広島市、関係省庁と連携しながら適切に対応してまいります。

（以上）



中国財務局
マスコットキャラクター
ざいちゅう

【本件報道発表に関する問い合わせ先】
中国財務局管財部特別国有財産管理官
電話 082-221-9221

主な項目の調査結果

1. 煉瓦壁の強度調査

～学術基準を上回る強度であることを確認～

- ・ 煉瓦水平目地せん断試験の結果、すべての調査箇所で見えせん断強度「1.6 N/mm²」以上という結果が得られ、学術基準(注)「0.45N/mm²」を上回る強度であることが確認された。

(注) 煉瓦造建築物の耐震診断規準(改訂第2版) 社団法人北海道建築技術協会

調査状況



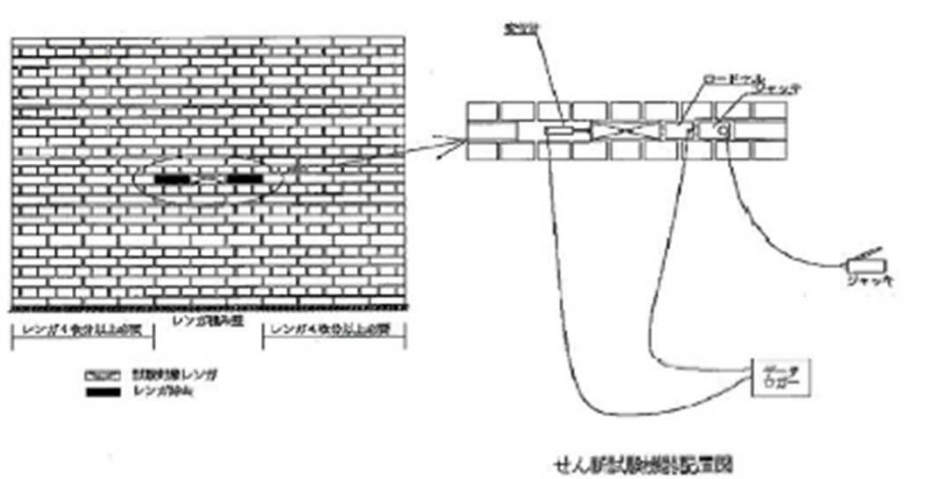
煉瓦壁露出状況



煉瓦目地せん断試験実施状況

(参考) 調査方法

- ・ 試験対象レンガの左右のレンガ及び目地を撤去する。
- ・ 測定面に石膏・接着剤により、アタッチメントを取り付ける。
- ・ 目地せん断試験機を設置する。
- ・ 水平方向にせん断加力し、測定を行う。破壊または試験機の容量限界(ジャッキ又はロードセル)まで加力する。
- ・ 測定結果(最大荷重)を基に、目地のせん断強度を算出する。



(参考) 目地のせん断強度試験の様式図

2. 躯体コンクリート（柱・梁）の強度調査

～現代のコンクリートと遜色ない強度であることを確認～

- ・コンクリートの圧縮強度試験の結果、柱、梁を含めた全体の強度は「22.7 N/mm²」という結果が得られ、現代のコンクリートの強度（24 N/mm²）と比較して遜色ない強度であることが確認された。

調査状況



コンクリートコア採取状況



圧縮強度試験状況

（参考）調査方法

- ・鉄筋探査機等を用いて鉄筋位置の墨出しを行った後に、コンクリートコアの採取位置を決定し、コンクリート用コアドリルにて試料の採取を行う。
- ・コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法は、JIS A 1107に準じて実施する。



（参考）圧縮試験機

3. 非構造部材（屋根瓦・鉄扉）の劣化状況

～屋根瓦、鉄扉ともに腐食が進行していることを確認～

屋外からの目視調査等の結果、

- ・ 屋根瓦については、腐食が進行しているため、全面葺替が必要
- ・ 鉄扉についても、腐食が進行しているため、台風時における脱落対策が必要

であることがそれぞれ確認された。

調査状況



高所作業車による調査状況（北側）



高所作業車による調査状況（南側）

（参考）調査方法

- ・ 高所作業車等を利用して、劣化度調査（亀裂・損傷状況の確認）を行う。
- ・ 屋根は、目視により、下地の劣化部分や瓦などの損傷状況を確認する。

<目視調査>

ひび割れ、欠損等

※目視にて判断出来る劣化を調査図面に記帳する。

【ひび割れ】

- ・ クラックスケールにてひび割れ幅を確認する。
- ・ コンベックス等にて発生ひび割れ長さを確認する。
- ・ 代表的若しくは特徴的なひび割れを写真記録する。
- ・ 目視にて漏水の有無を確認する。

【欠損等】

- ・ コンベックス等を用いて、発生している劣化のサイズ及び欠損している深さを確認し、調査図面に記帳する。
- ・ 代表的若しくは特徴的な劣化状態を写真記録する。

4. 耐震診断

～ I S値が目安としている0.6を満たしていない
ことを確認～

- ・耐震性能を示す I S値については、最も低い場所で「0.48程度」であり、目安としている0.6を満たしていないことから、最低限の耐震補強が必要であることが確認された。

(参考) 調査方法

- ・各調査項目の結果や経年による劣化度等を総合的に評価し、 I S値を算出する。